



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail [info@nantonakuno.net](mailto:info@nantonakuno.net)



居場所からの風景・写真左下がジャガイモ畑

## 勉強会開催 (3月24日) 支援教育現場での工夫

昨年に引き続き石山さん(千葉県教育庁・葛南教育委事務局・特別支援アドバイザー)に講師をお願いしました。石山さんは、船橋市の小学校を退職後、「公立幼稚園、小・中学校、高等学校において、障害のある子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方を考え、教職員・特別支援教育支援員・ボランティア等に対し、助言・援助を行う非常勤職員」として活動しています。

今回の勉強会「特別支援教育・学校現場での工夫、あれこれ…」では、石山さんが支援の実際とグッズの紹介をしてくださりました。空気漏れを防ぎ、指を安定させるため「魚の目パッド」を貼ったリコーダーや「くるんパス」というコンパスなど、試してみたい工夫がたくさんありました。



資料の中に、「すべては子どもたちのために、いつでもどこでも だれにでも」という言葉がありました。私たちNPOは、学校とは違うけれど、利用してくれる人たちのために、「いつでも どこでも だれにでも」の視点は忘れてはいけないものだと感じています。様々な問題は起こるものだけれど、臆病にならず、できる支援のあり方を常に探っていけたら、思わぬ発見もあるものだと感じています。

また、「レジリエンス筋肉を鍛えるワーク」や「リフレーミングレッスン」などのワークも行いました。ついつい他人と比べて自分のことを悪く考え、落ち込んでしまいがちですが、自分のよいところをいつも自分で見つけておく、このことは心の筋肉を鍛えることになるのだと思います。そして他の人に対しても一方向だけではない見方ができると、心の柔軟性につながるのだと思いました。たとえばコップの水が半分しかないと考えるのではなく、まだ半分もあると考えることなどのように。特に子どもたちを育てる時には、とても大事な視点だと思います。(白井)

### 参加者より

- ◇ 靴紐やコンパス、三角シャーペンなど工夫の仕方を、実際に触って体験でき、とても勉強になりました。
- ◇ 小学生に教えた経験がなく「百玉ソロバン」(写真)をはじめで見ました。具体的にどのような場面で有効なのかもっと知りたいと思いました。

## 目次

勉強会	1
支援教育現場での工夫	
ひきこもり支援連絡会	2
4年目の放射能測定(2)	2
活動報告	3
進級を祝う会!	3
こんな本はいかが・4	4

## 居場所のひとこま

お天気情報では暖かい日のはずなのに、北からの風が冷たい金曜日、大家さんの指導でジャガイモ植え付けをしました。今年は種イモが不足とのことで、芽が出かけのイモを2つに切りました。畝をつかって80個くらいを30cmくらいの間隔に並べ、間に鶏糞などの肥料を置いて土をかけます。みんなそれぞれがんばって、ジャガイモ畑ができました。芽が出るのが楽しみです。(N)



## 第2回 日光市ひきこもり支援連絡会

2月14日(水) 日光市役所にて

「ひきこもり」支援連絡会が2月に開かれ、参加してきました。ひきこもり相談支援センター「かがやき」2年目前半の実績が示され、アンケートなどによるニーズの掘り起こし、他の組織との連携事例など、活動の広がりを感じる報告でした。利用者の現況報告では、それぞれ異なる背景をもつ事例が示され、「ひきこもり」支援のたいへんさを感じました。

効率よく働こう、余暇も効率よく(適当にお金を使って)遊ぼう…。ぼーっとしているのはまるで悪いことのような雰囲気社会に広がっています。自分のペースでのんびり自由に働きた

いと言っても、許してくれる会社は少ないでしょう。「働き方の多様化」と言われているいっぽうで仕事のスタイルは相変わらず均一です。そんな矛盾を感じながらひきこもっている人はいないのだろうか。もしたとしたら、その人にとって就労支援って何なのか、支援は何を目指すのかと報告を聞きながらぼんやり考えていました。この日光に、多様で柔軟な雇用が出現する可能性があるのか、もしそんな求人が提示されたとき、動き出す「ひきこもり」はどれだけいるのか。調査し、考えてみる価値があるのではないかと思います。(手塚)

日光市ひきこもり相談センター かがやき (相談無料)

0288-25-5508 imaiti5508@gmail.com

## 4年目の放射能測定(2)

なんとなくのわ・環境研究班

「福島原発事故から日光に飛んできた放射能の量を知りたい」と、2014年9月に放射能測定器「ChappyDigital211(略称CD211)」を導入し、「環境研究班」の活動が始まったことを通信47、48号の「3年目の放射能測定」で紹介しました。同じ年に、日光市栗原に「木質バイオマス発電所建設」の話が持ち上がり、住民が立ち上げた「考える会」にアドバイザーとして協力する中、放射能問題を直視しようとしな企業と行政の姿勢への疑問を強く感じるようになりました。

摂氏300度くらいで温度で木材を燃やすと放射性セシウムは200倍ほどに濃縮され、灰に残ると言われます。たとえば乾燥した薪にキログラムあたり40ベクレルの放射性セシウムが含まれていたとすると、灰の放射能濃度は8,000ベクレルになります。この灰(特定廃棄物)の処分はどうするのか。周辺地域に拡散しないのか。バイオマス発電に使用するボイラーは乾燥した木材チップをより高温で燃やします。その場合、放射性セシウムは排ガスにどの程度含まれるのか、どういう対策があるのか。建設計画の話から4年が過ぎても、いまだ栗原地区の住民が納得できる企業からの説明はありません。

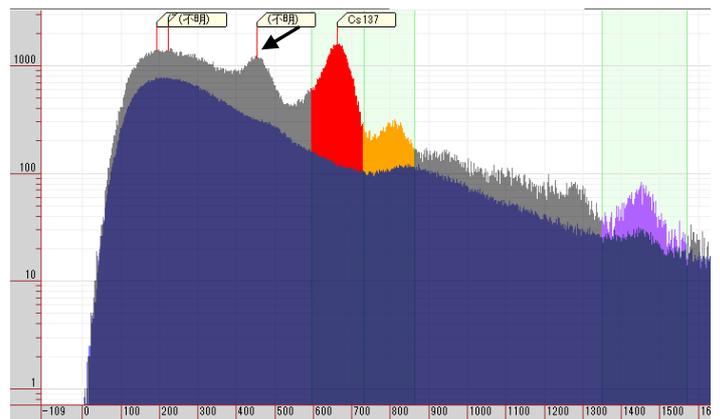
日光周辺の木材の放射性セシウム濃度は、樹木の種類、地域、部位によってさまざまですが、雑木林に生えるナラの木は樹皮も含めると少なくとも数十ベクレルの放射性セシウムを含んでいると考えられます。CD211は安価な測定器ですが、このレベルの放射能汚染を評価できるようにしたいと思いました。住民の立入検査により、木材チップの放射能を評価し、問題があれば、より精度のよい測定に依頼するというような仕組みを作ることができればと考えたからです。さいわい、研究機関の協力を得て、ゲルマニウム半導体検出器での精密測定とCD211の測定結果を比較することにより、キログラムあたり10~20ベクレルまでの信頼性を保つことができています。肝心の木材チップの測定は、企業側の拒否により実現していないのは残念なことです。

ところで、放射能測定を繰り返す中で、ちょっと面白いデータをみつけました。図は大沢にある栗の落ち葉に含まれる放射能を調べたデータです。枯葉を測定にかけても数ベクレルの濃度の放射性セシウムは検出できません。そこで、土が混入しないよう注意深く枯葉を集め、燃やした灰を測定してみたところ、その灰からはキログラムあたり約1100ベクレルの放射性セシウムが検出されました。枯葉を灰にした場合、どれくらいの濃縮となるかのデータはありません。仮に木材と同程度と考えれば、キログラムあたりの放射性セシウム濃度は約5ベクレルと

なります。枯葉に含まれる放射能は樹皮から移動したのだろうか根から吸い上げたセシウムなのだろうか、などと考えながらグラフを眺めていて、ふとおかしな「山」に気づきました。

放射能測定器の多くは試料から放出される「ガンマ線」を検出し、エネルギーを推定して記録します。グラフの横軸はエネルギー、縦軸はエネルギーごとの放射線本数です。図は、測定器がとらえた放射線エネルギーのヒストグラムと考えてください。(どうしてこういう形になるのかは省略)放射能は特有のエネルギーを持つガンマ線を出すので、そのカウント数を手掛かりに放射エネルギーを推定します。中央から左のふたつの山が放射性セシウム74の信号です。右下は「カリウム40」という、自然放射能からのガンマ線の山です。気づいたのは一番左に見える山(矢印)。通常、こんなところに信号は見えません。何だろうと思いつつ数か月が過ぎ、やはり気になるので、エネルギー分解能の高いゲルマニウム半導体検出器での測定にかけてみることにしました。結果は477keV(キロ電子ボルト)というエネルギーを持つガンマ線がその正体。ガンマ線を出しているのは<sup>7</sup>Be(ベリリウム7)という「スイ・ヘイ・リー・ベ」の「ベ」にあたる原子番号4番ベリリウムの放射性同位体らしいということがわかりました。確認のため、4月半ばに同じ灰をCD211で測定してみたところ、矢印位置の山が消えています。<sup>7</sup>Beの半減期は約53日。前回の測定より130日経ったということは、約80%の放射性ベリリウム7はリチウムに崩壊し、<sup>7</sup>Beからのガンマ線量はおよそ5分の1に減少したはず。前回、12月に見つけた「山」が4月に消えてしまったことが説明できます。

思いがけず、<sup>7</sup>Be(ベリリウム7)に出会ったお話でした。この同位体は「大気上層の酸素および窒素が宇宙線による核破砕を受けて」作られ、雨などで地表に降ってくるそうです。興味を持たれた方は以下のURLをご覧ください。(三上、手塚)  
[https://www.gsj.jp/data/gcn/gsj\\_cn\\_vol3.no12\\_357-365.pdf](https://www.gsj.jp/data/gcn/gsj_cn_vol3.no12_357-365.pdf)



- 2月 4日 (日) 100人鍋パーティー (食べて遊んで学んで育つ・子ども応援隊・中央公民館) に参加
- 2月 7日 (水) 通信「なんとなくのひろば・第50号」発行
- 2月11日 (日) ベリー会：学習会
- 2月14日 (水) 日光市ひきこもり支援連絡会 (第2回) 出席 (日光市役所)
- 2月24日 (土) ~ 25日 (日) 多様な学び実践研究フォーラム (早稲田大学戸山キャンパス) <http://aejapan.org/aeforum/>  
分科会F (多様な学びの場の実践を深める~居場所と学び~) にて本会が紹介されました。
- 3月 7日 (水) 理事会 (第82回)
- 3月12日 (月) 茶話会 (第81回)
- 3月18日 (日) ベリー会：月例会
- 3月24日 (土) 特別支援教育・学校現場での工夫、あれこれ 講師：石山博幸さん
- 3月27日 (火) 進級を祝う会
- 3月30日 (金) 子どもの居場所・2017年度終了
- 4月 3日 (火) 子どもの居場所・2018年度開始
- 4月 9日 (月) 茶話会 (第82回)

## さくらそう関連の勉強会など

- 平成29年度相談支援専門員連絡会  
(毎月第4水曜日 午後2時より)に参加しています。
- 2/28 皆で座輪座話しよう
- 3/28 振り返り・評価・次年度計画
- 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会  
第6回 3月16日(金) 振り返り・次年度検討

## 不登校新聞:不登校証言プロジェクト

本会会員の加藤さんが関わった記事がインターネットに公開されましたので紹介します。

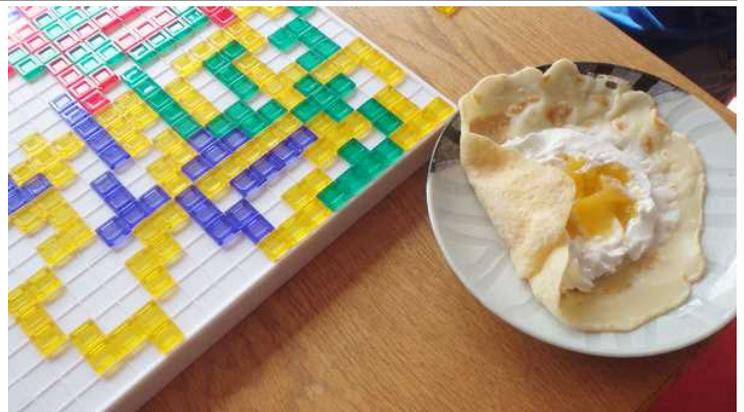
<http://futoko50.sblo.jp/s/article/182905263.html>

【加藤さんより】「おたるネット」代表の古山明男さんへのインタビュー記事です。概要は、オルタナティブ教育がなぜ求められるのかの話ですが、学校の算数教育の在り方に関する疑義と提案も述べられていて、証言プロジェクトの中では趣向を少し変えた内容になっています。ご一読いただければ幸いです。

## 3月恒例「進級を祝う会！」



今回のメニューは「クレープ」でした。  
好きなトッピングでお召し上りください。



子どもたちと相談していくつかボードゲームを買いました。  
人気があったのがこのゲーム「ブロックス」  
ルールは簡単ですが、奥が深そう。

## 子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所 (日光市平ヶ崎)  
日時：毎月第2月曜日 (午前10時~12時)  
次回の予定はお問い合わせください。  
参加費：300円 (お茶代)

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、  
情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなまで！」を合い言葉に。(Tel: 090-3227-7079)



フィニッシュは毎年おなじみのケーキパーティー、どれにしようかな。  
美味しいコーヒーもどうぞ。



## こんな本はいかが？

その 41

### あなたの人生の物語 テッド・チャン

浅倉久志・他訳 ハヤカワ文庫<SF1458> 2003年9月

テッド・チャンが2002年に発表した、不思議な味わいを持つ短編集です。表題作“Story of Your Life”が“Arrival”というタイトルで映画化され、1年ほど前に「メッセージ」という邦題で日本公開されました。巨大な『柿の種』のような宇宙船に乗り、明らかに人類を上回る科学力を持つ生命体「ヘプタポッド」は何のために地球に現れたのか。異星人を危険視する軍隊とその知性を理解しようとする言語学者との葛藤が後半のハイライトになり、ハラハラドキドキで終わる映画でした。

見終わったあと、あれ、こんなお話だったかなあと本棚へ。ハヤカワ文庫の初版本を見つけました。小説では宇宙船は大気圏外にとどまり、「ルッキンググラス」と呼ばれるテレビ電話のようなシステムがヘプタポッドとの連絡装置。軍が極秘で集めた研究者チームとのコミュニケーションの様子は女性言語学者の回想として淡々と記述されます。その合間に、言語学者と娘とのエピソードが時間を行ったり来たり未来形で挿入されるというのが原作の構成です。映画後半のドタバタ劇はなく、生命体が突然立ち去ることで小説は終わります。

映画のヘプタポッドは禅僧が書いた「○」のような奇妙な文字でメッセージを表現し、このパターン解読が前半の山場でした。小説ではより複雑な書体体系が紹介されます。物理学者チームが対話の中で「変分原理」を持ち出したことをきっかけに突破口が開け、ヘプタポッドと研究者たちとの議論が成立します。密度の異なる媒体を通過する光線がく自然に最短経路を取るように、この生命体は過去・現在・未来を一瞬で認識できるのかもしれないと言語学者は推理します。「ひとつで全宇宙を表現する巨大な象形文字が世界を表現する」という発想はボルヘスの図書館を連想させ、面白いと思いました。

もちろんこれは小説なので、現実を持ち込むとオカルトになってしまいます。けれど、ここで展開されている未来予測と個人の自由意志とはどう関係するのか、人類が共有する数学や物理学の体系が唯一のものなのかという問いは興味の尽きない話題ですし、SFでよく扱われるテーマでもあります。ときにはこんな本を読み、宇宙人になって人間を眺めてみるのも楽しいかもしれません。

(手塚)

## 私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

## 私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

## 会員について

正会員：59  
賛助会員：19  
団体会員：4  
入会金はありません。

年会費(一口)  
正会員 3,000円  
賛助会員  
個人 5,000円  
団体 10,000円

私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。会員を継続し、応援よろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。皆様の積極的な参加をお願いいたします。



## なんとなくのへや

通信の号数「51」に合わせて51年前の思い出を書いてみよう。その頃の中学生の多くはアルバイトをしていた。私も友達に誘われ、鬼怒川カントリーでキャディをやった。日曜日、朝から晩までゴルフバッグを担ぎ、450円から600円くらいのお

金を稼いだ■ためた小遣いをポケットに入れて近所のジャンク屋をまわり、ラジオやテレビの中古部品を買い込む。真空管が10数本付いた、壊れた通信機を100円払って自転車で持ってくれば、それは大した宝物だった。分解してアマチュア無線愛好者は無線機、自作オーディオ組立を始めた奴はアンプの部品に使う■感電したり、ヒューズを飛ばして停電させたり、家の前に変なアンテナを立てたりで忙しい。高性能のスピーカーを手に入れるため、親に「宇宙宮に行く」と嘘をつき、秋葉原に買い出し旅行を決行したこともあった。エレキマニアが5、6人、それほど仲が良かったわけでもなく、各自がやりたい方向を向いていたけれど、情報交換はしっかりやっていたように思う■3月の勉強会の講師をお願いした石山さんはその仲間の一人だった。今でも「危険物ゴミ」の日、道端に古い電気部品を見つけると、つい持ってきてしまうと言っていたが、まんざら冗談でもないような気がする■時代は変わった。あの「ラジオ少年団」が自然発生することはないだろう。でも、大人や学校からは見えない場所、どこかのガレージ、もしかするとインターネットの片隅で「面白いこと」に取り組む子どもの存在はいつの時代も変わらないと思いたい。(T)